

講座Ⅲ

「難聴理解と難聴擬似体験」

「難聴児支援と難聴理解授業」

島根県立浜田ろう学校

福島朗博

# 難聴児支援と難聴理解授業

- きこえない子どもの困り感のわかりにくさ  
周りからも・自分自身も
- 難聴の擬似体験
- 難聴理解カルタを使った理解授業
  - ①教育相談担当 ②通級指導担当
- 障がいの大きさの箱
- 「ほちょうき」の紙芝居
  - ③乳幼児教育相談担当

# 聴覚障がいの子こえとバリア

## <聴覚障害のバリア>

「聴覚障害は端から見て、  
目に見えない障害であるだけに、  
どうしても軽く見られる傾向がある。  
しかし、人生を生きていくのに、  
不当に不利な状況に落ち込まれる。」

(聴力障害新聞より)

## きこえない子どもの気持ちを 想像すること

- 難聴の擬似体験は難しい
- きこえ方は人それぞれ(同じ聴力であっても)
- コミュニケーションや人間関係におよぶ障害
- 生きていく上で、とくに重大に陥りやすい心理的バリア

まず**子どもとの信頼関係**が築かれること。そこから「相手を信頼していいんだ。自分を出していいんだ」という子どもの自己信頼感が太くなっていく。

そのためには子どもに寄り添いながら、**「きこえない子どもの状況や気持ち」**を常に想像する努力と感性が大人に求められる

# 障がいの理解を進めるための取り組み

きこえない子どもの気持ちを想像するために

- 父親講座や両親講座で行う難聴の擬似体験
  - 耳栓＋ウエイトノイズ・ウオークマンの擬似難聴者がグループ(他2名)で会話を体験してみる
  - ①(配慮を伴わない)通常の音声のみの会話
  - ②音声による移動の指示
  - ③擬似難聴者に伝わるように配慮した会話
  - ④感想を話し合う(深化)
  - ⑤グループ発表
  - ⑥きこえない親の体験談 まとめ

## 難聴の擬似体験の感想から(両親講座)

- きこえない人の立場になって思ったこと
  - 配慮がないとき
    - 視覚だけが頼り きこえないと口元を見る
    - 相づちや「そうですね」はわかる
    - 会話のテーマにより理解の程度が違う
    - 単語は読み取れても全体の意味がつかない
    - 集中切れ、疲れ、ストレス、あきらめ(「まあいいか」「早く終わらないかな」)
    - 心理的なバリア: 不安(こちらを見られると「自分のこと?」)、孤独、自分の存在感の薄さ(「ここにいていいの?」)、無力感
  - 周囲の前置きのない突然の行動の変化について
    - 驚き、不安、孤独
  - 配慮があるとき
    - 自分の存在を認めてくれている、自己肯定感
    - わかりやすいので嬉しい、わからなくても気持ちが伝わる
    - 安心感

## 難聴の擬似体験の感想から(両親講座)

- 擬似難聴者へ伝える立場になって思ったこと
  - 一生懸命(「どうやったらわかってくれるか」)
  - 口を開けたり動作をつけたりして伝え方を意識
  - テーマの中身によって伝え方が難しい
- 子どもの気持ちを想像してみても
  - 子どもはことばをもたない段階からこんな状態にいるのだ
  - 子どもは表情をよく見ている
  - 子どもは雰囲気を感じている
  - 子どもの気持ちをもっとわかりたい
  - 子どもからの訴えを受けとめよう

### 心理的バリアによる孤独感や無力感

わかるための手立て、わかることや伝えられることの嬉しさ  
の両側面の体験の実感、一方的に落ち込ませないよさ

# 理解授業の取組例3「難聴擬似体験」

## クラスメート(小6)の感想

- 私は「きこえにくいってどうゆうこと？」という勉強で、遊びグループでした。ふだんの日常の中の「遊び」から耳の聞こえないってわかるのかなと思っていたけど、やってみるとよくわかりました。みんなが楽しく遊んでいる時に、私だけポツンとした感じで何を言っているのか、いつ始まるのか？という感じでした。色おには、おにが言った色をタッチしなくちゃいけないのに、わからないから他の人を見て動かないといけないからたいへんでした。

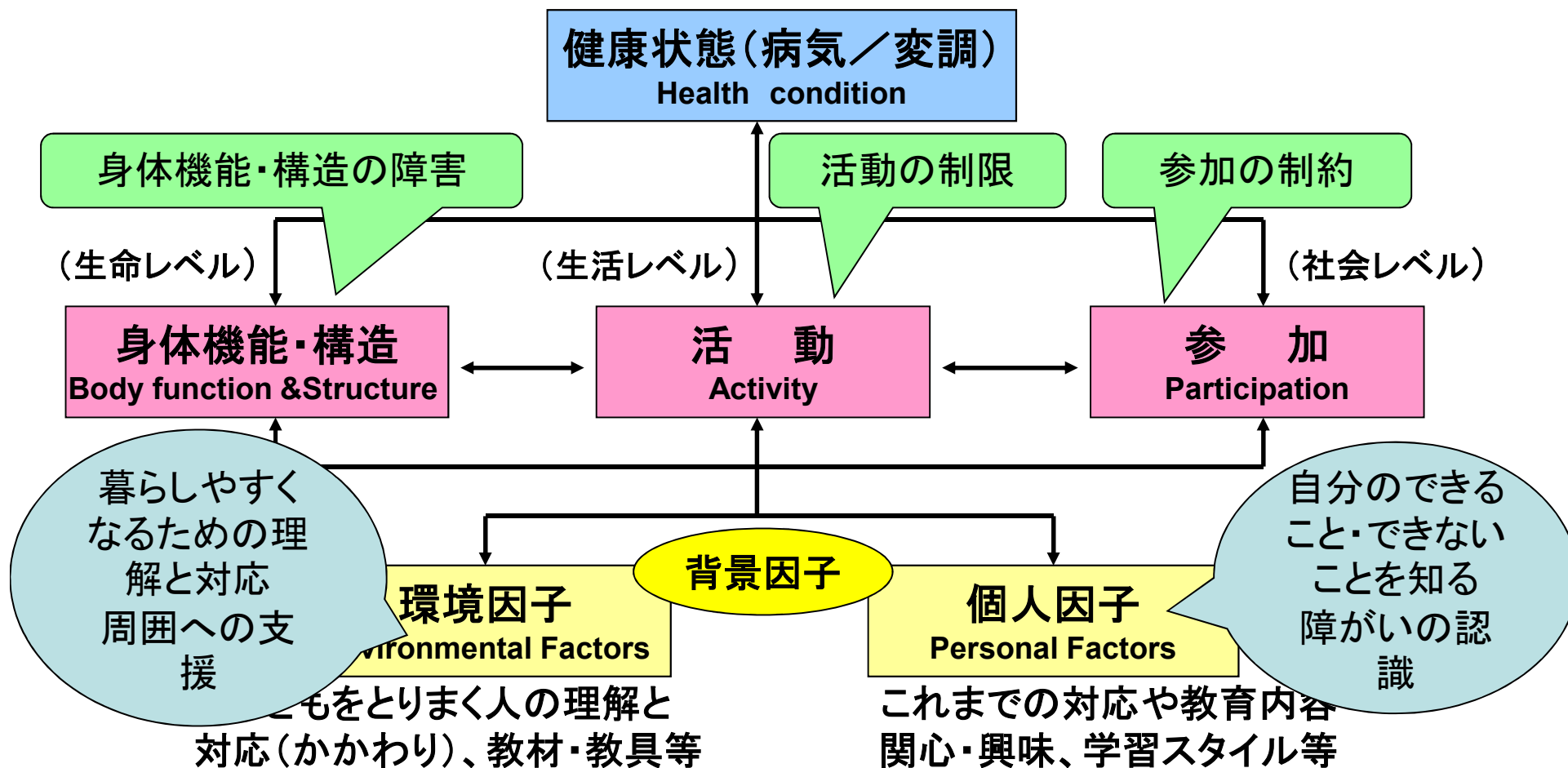


# 理解授業の取組例3「難聴擬似体験」

## クラスメート(小6)の感想

- けいどろでは、いつ交代したの？いつ始まったの？というような事を感じながらゲームをするので、正直本当に楽しくはありませんでした。だけどBくんはいつもこんな気持ちをいただいているのかな？と思い、「大変な人なんだなあ」と思いました。そして、こういう時、Bくんもいっしょにみんなで楽しめるようにちゃんと教えてあげて、Bくんが少しは楽になって、みんなと本当に楽しめて遊べるように協力していきたいです。この体験で感じたこと、思ったこと、気持ちがわかっていい体験でした。

# 国際生活機能分類 (ICF) 2001



\* 統合モデル (相互作用) ・ 社会の支援体制の整備責任  
・ 生活の質 (QOL) 優先 ・ インクルージョン (一体化、包括化)

# 小中学校の通常学級で行われている ノートテイク支援 <個人因子>

- 島根大学学生チームによるボランティア
- 小中学校とろう学校通級指導担当との協働
- 授業や校外学習、朝の会や帰りの会等の情報保障
- きこえる人のきこえ方への気づき
- 自分の障がい認識の受け入れ
- 「今なんでみんな笑ったの？」  
冗談の中身が一番知りたい
- そばにいてもらえる安心感
- 特別扱いを嫌がる思春期の難しさ
- ろう学校の同学年クラスでの交流(合同学習)  
きこえない仲間とのふれあい「自分だけではない」  
わかる授業(ろう学校の見せどころ)  
手話との出会い 目から「わかる」

# 通常の学級で行っている「難聴理解の授業」の 提供や支援（通級指導教室や教育相談）

- 通常の学級にいる難聴児の暮らしの支援
- 補聴器体験（**周囲**）  
どんなふうに聞こえる？
- 難聴のきこえの擬似体験（**周囲**）  
どんな気持ちだろう？どんな気持ちになった？  
どんなふうに伝えたらいいかな？
- 本人の障がい認識を育てる（**本人**）  
できることやできないことがあることを知る  
自分のことをみんなに説明できる
- みんなちがってみんないい（**本人**・**周囲**）

ICFでいう  
**環境因子**や  
**個人因子**に  
積極的に  
働きかけ、  
活動の制限や  
参加の制約を  
払っていくもの

# ①中等度難聴児のいる通常学級(小5)での 理解学習の取組

きこえにくいってどんなこと？

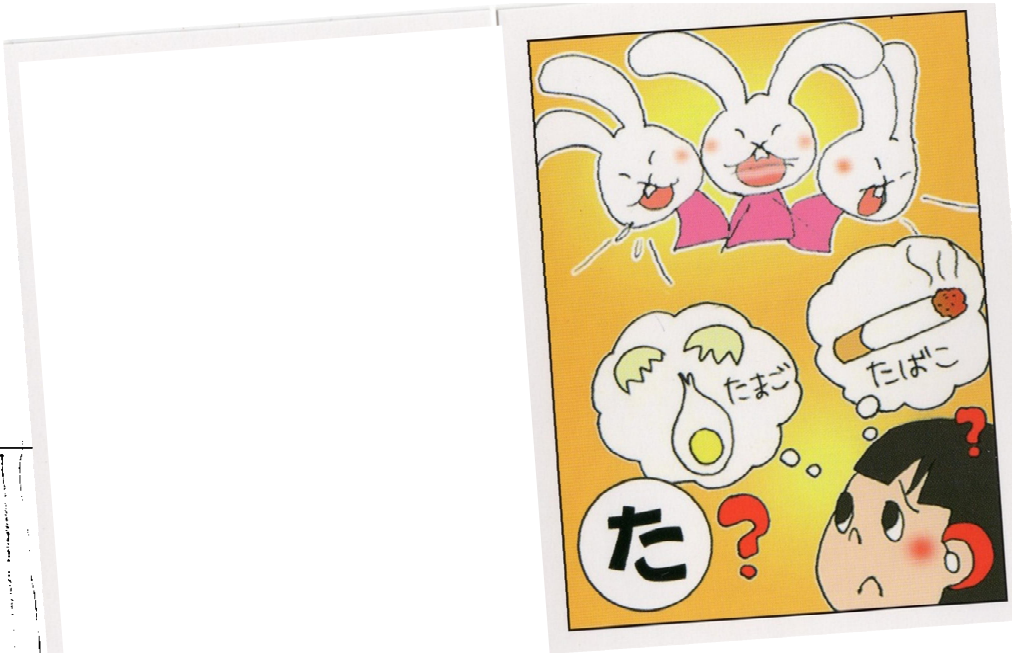
- 導入「Aさんはどんなことで困っている？」
- Bくん「Aさん、きこえているよ」
- Cさん「言ってもわからなかったり違うこと言ったりする。呼んでも返事しなかったりする」
- 『難聴理解カルタ』(聴覚障害教材研究会)を活用
- 難聴児が困っている絵札を見せて理由を考えさせる
- 読み札を見せて斉読



どうしてこまっているの？



「〇〇(イ列連続音)ました」の同形異音について、通級指導で難聴児(小3)と調べたもの

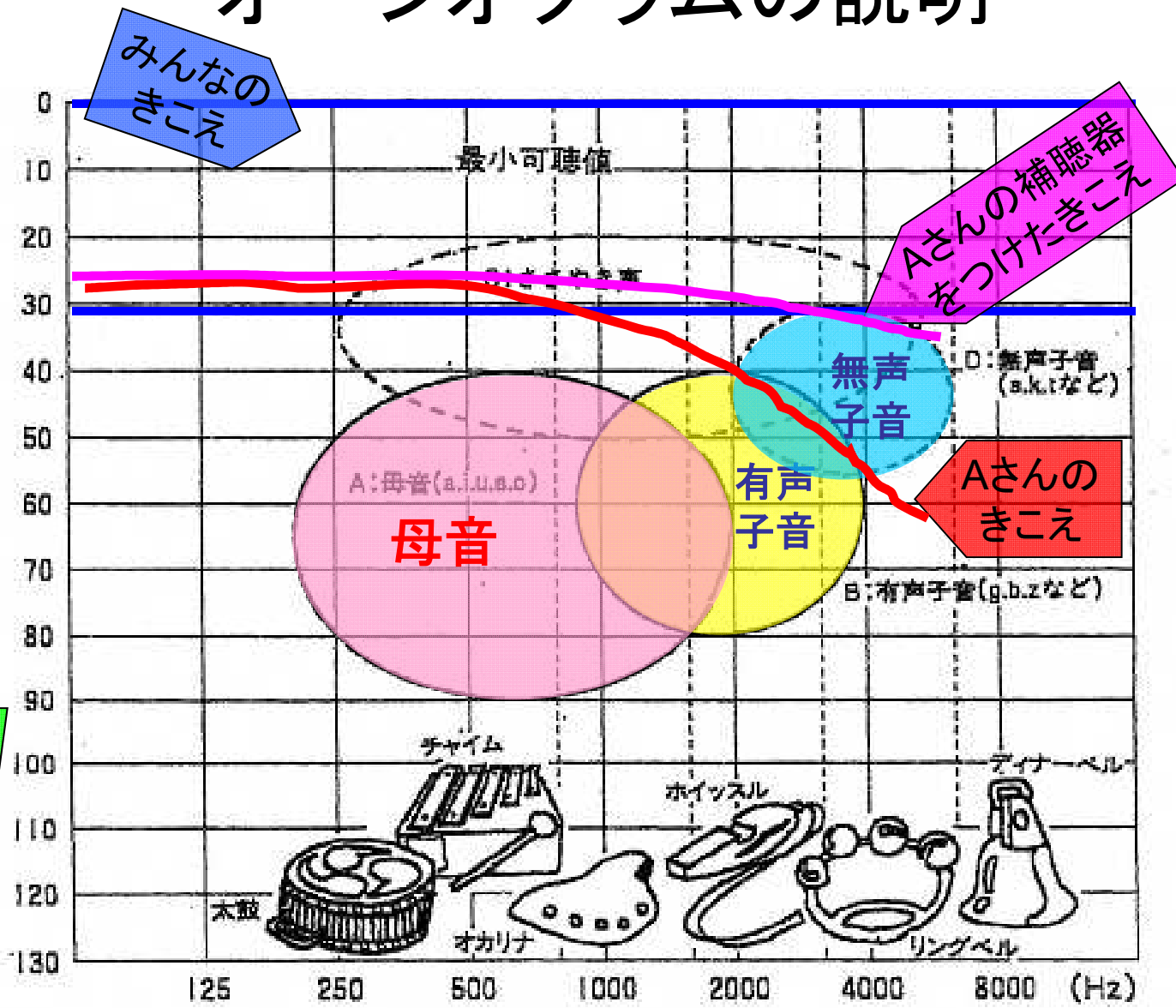


シートを	ありがとう	ことはを	サクラの花びらが	リマ行は	100才まで	キノコを	かんで	つたよ	音を聞	えいがを	えい話を
しやい	かり	知り	ちり	行き	生き	ひき	しに	かき	聞き	み	い
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま

難聴の理解授業で、本人と相談してクイズにして使う。  
「わかりにくいね。では、どうしたらはっきり伝えられるかな？」

なんでこんなことになるの？

# オーディオグラムの説明



びみょう

びんごう



## オーディオグラムの理解～自分のきこえを知る～

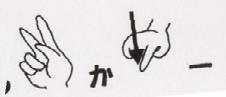
- 小学校高学年であれば、聴力検査後にオーディオグラム(音の高さ・音の強さ・スピーチバナナ)を説明して、自分の裸耳と装用耳の聴力について、きこえるところときこえないところがあることを知らせている
- 子どもによっては67S語音検査を行って、異聴傾向を伝えて、間違いやすさがあることを理解させる
- 自分のきこえかつ補聴器の効果と限界について正しく理解して受けとめられること
- きこえる人のきこえ方も説明する
- きこえないことは悪いことではないと受けとめる
- きこえには限界があり、それを補うための工夫を考える

# 補聴器をつけたらなんでもOK?

補聴器は万能でなく

音域の無声子音は

ざつ音が  
多いとろは  
わわわにんじん



な  
わげではないし  
よけいな音まで  
大きくしちゃう



を続けることが大切  
らため、雑音の中では、  
う困難  
いな環境に

# 伝わりやすくなる

口を見せて

めりはりつけて

話の始まりを知

手がかりを与えながら

(身振り・手話・指さし・絵・文字・文脈 etc.)

「伝えたい！」という気持ちが一番大事



あるよー！

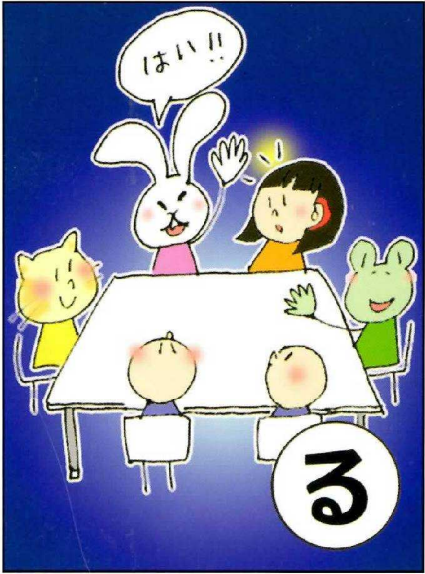
たくさん

つ たえる方法

ほうほう



# 伝わりやすくするためには...



**る**  
ールだよ!  
話を<sup>はなし</sup>する人  
手を<sup>て</sup>あげて!  
る す ぼ ん



**そ**  
ばにきて  
かたをたたいて  
おしえてね  
そ ら

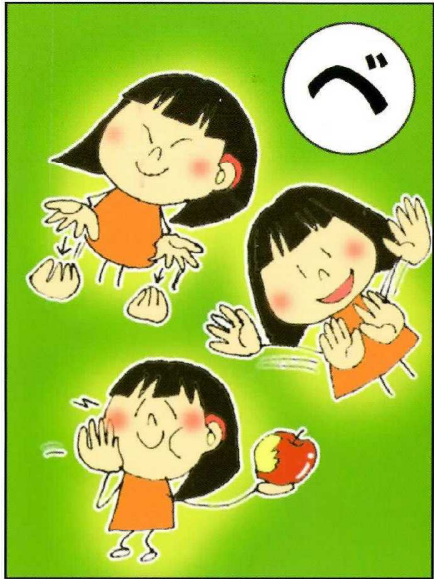


**ん**  
ん?ん?ん?  
「おしえて  
ください  
まじ一度」  
ん ん



**れ**  
んらへは  
かいてへねるよ  
見てわかる  
れ も ん

# 伝わりやすくするためには...



べ

べんりだよ  
 しゅわ...め  
 手話は目で見て  
 てはな  
 手で話す



め

めんどくさがらず  
 おし  
 教えてほしい  
 みんなの話に  
 はな  
 まざりたい



ね

ねえ、なんで  
 わら  
 笑っているのか  
 おしえてよ...  
 ね こ



ゆ

ゆびもじを  
 お  
 覚えてくねると  
 うれしいな!  
 ゆ き だ る ま



# ①理解授業でのAさん(小5)の発表と日記

## 発表

『私は友達がこそこそというとき、きこえなくて、時々「なに」「え？」と言うけど、補聴器をつけるとよくきこえます。もう一つは、みんないっせいに「わー」とかいろいろ言われると、きこえにくいけど、補聴器をつけて一人一人言ってくれればよくきこえます。これからがんばって補聴器をつけたいです』

## その日の日記より

『今日はみんなにいろいろと教えて、みんなもわかってくれたかもしれないので、できるだけ補聴器をつけたいです。みんなに指文字を教えたら「すごい」と言ってくれたので、うれしかったです。(手話イラストで→)私の名前はA(指文字)です。よろしくお願ひします』

## 理解授業の取組例2「補聴器体験」 難聴児Bさん(小4)の感想

- 「2時間目にC先生(ろう学校通級担当)とお母さんが来ました。まず最初に中耳えんやいろいろ話してくれてよかったです。

次に私のお願いしたいことを発表したのも、とてもきんちょうしました。私がお願いしたことをみんながはくしゅをしてくれてうれしかったです。お願いしたことを静かに聞いてくれてよかったです。

みんながほちょう器をつけてみたらよく聞こえてよかったですと思いました。」

## 理解授業取組例3

H25.4月 D児(小5)の通級指導(初回)

- 「学校で困ってることない？」
- 「困ってない」
- 「えっ、本当は困ってるでしょう!? 友達の話がわからないこと、あるんじゃない?」「ない」
- 「遠くで友達がぼそぼそ話しててわかる?」「わかる」
- これまで手掛けた理解学習の話をして「一緒にやらない?」
- 「やりたくない」
- 「はずかしい?」「うん」



## ②H25.4月 D児(小5)の通級指導(初回)

- そのうち「よく1年生が、これ何？と聞いてくる」
- 「そうなんだ。それでどう答えてる？」
- 「補聴器と言っている。きこえない人がつけるものと言っている」
- 「えらいなあ、上手にきちんと答えてるね。何回も聞いてこない？」
- 「そう。むかつく」
- 廊下からガヤガヤ声が聞こえてくる
- 「聞こえる？話がわからなくなるでしょ？」「うん」
- 「きこえる人は、周りがやかましくても、聞きたい人の話がわかるんだよ」

## ②H25.5月 D児(小5)の通級指導(3回目)

- 難聴理解カルタを見せて
- 「この女の子、なんで困ってるのかなあ？」
- 『に』「うるさい？自分もきこえない。近くの声がいい」
- 『ざ』「ざわざわ。うるさい。わからない」
- 『りゃ』「わからない」
- 『た』「たが同じ」
- 『い』「うるさい？」
- 「今度、これを使ってクラスで説明しない？」
- 少し頷く

## ②H25.5月 D児(小5)の通級指導(4回目)

- ろう学校の補聴器を使ってFMシステムを試聴する。初体験
- とびっきりの笑顔で「よく聞こえる！」
- 「クラスの授業でつけてみたい」
- 母親と懇談。FMシステムの購入を前向きに手続き等について説明(5回目)

## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(6回目)

- FMシステムの試聴(2週間)開始に合わせて、理解学習を「クラスで補聴器の話をしてほしい?」と持ちかけたら、「OK!」
- 「補聴器のお話」として「いいところ」「苦手なところ」「お願いしたいこと」を作文にして自分の言葉で書いて3枚仕上げた。
- 内容に合わせて「理解カルタ」の絵・文カードを見せて「そうだよね～」と共感!
- 別の学校の通級児(小6)が「給食のときの放送チャイムがきこえないんだって。なんでかな?」と投げかけたら「周りの人の話し声と重なったから」と答えた

ほちょう 器のお話。

★ 111所

いろんな、お話もきける。

テレビも、きける。

なんでもきこえる。

音が、だんだん大きくなる。

★ やだ"は"と思うこと

「え？なんていったの」と言ったら、

「もういはいや」という人。

④  
やだ"は"と思うこと  
「え？なんていったの」と言ったら、  
「もういはいや」という人。

⑤ つまらぬ-おかしことば  
22と71004

☆ にかがてな音 ④ ほんまにうて. ほんまに

キーンとか、耳もとで、大きい声も  
出すこと。こしょこしょばなし。  
とおいいところで、声を出す  
こと。すわっにままだ、はっぴ  
ょうすると、だれかわからな  
いこと。ちっちゃん声。

② ほんまにうて  
③ ほんまにうて  
④ ほんまにうて  
⑤ つまらぬ-おかしことば

① しんじゆん. 22と71004 ⇒ ② ほんまにうて. ほんまにうて

☆ 気をつけてほしいこと

耳もとで話すときは、ふつうの  
声で、しゃべってください!  
はっぴょうする人は、立っては  
っぴょうしてください!

⑥ ほんまにうて  
⑦ ほんまにうて  
⑧ ほんまにうて  
⑨ ほんまにうて

☆ 音を付けてほしいこと

③

めんどくさがら可<sup>レ</sup>に、言っ  
てください！

④ おいこちゃん もう一度

ペンきょうのときは、静  
かに！ 火の話と、さわい  
でる声がかさなって、きこえ  
なくなるから！

⑤ つきま 多くとこは 2と2712cm.

FMほちょう器は、マイク  
をもってる人の話がわかるの  
で、つけてください。お

⑥ やくたどう FMマイクで

## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

- 準備物: 投影機、理解カルタ、試聴補聴器3台、ポリ袋
- 4名参観(校長・教頭・教員2名)
- D児が予想以上のいい笑顔で張り切っている。FMを友達の前でつけて、送信機からのチェックにOKサイン
- 「家で書いてきた」とノートを見せてくれた。そこには発表原稿が！
- 母親からの連絡ノートには、家で一緒に清書して、発表の練習もしてきたことが書かれていた
- 「これは何か知っている?」「補聴器」
- 「なんでつけてるのかな?」「きこえないから」



## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

- 「みなさんの家族にも補聴器つけてる人いる？」
- 5人手を挙げる。「お母さんがBさんと同じ補聴器」「おじいさんがこんな感じ(箱型)の」etc.
- 「補聴器はメガネと同じようになんでもという感じで、きこえるようになるかな？」
- 補聴器の試聴(隣の人にはポリ袋をこする)と感想
- 「机と椅子についてるテニスボールはどうしてつけているのかな？」
- 理解カルタの絵札を見せて「どうして 困ってるのかな？」  
(A児の実践に同じ)



## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

- ・ カルタでFMの絵札を見せて、D児が本日からつけるFM補聴器について、D児に見せてもらって説明する
- ・ D児が前に出て発表(家で書いてきた作文を読む)

「僕は4才のときに、おたふく風という病気で、左耳が聞こえなくなり、右耳も大きな声でないと聞こえなくなりました。でも、ほちょうきをつけるようになって、ふつうに聞こえるようになりました。

ほちょうきのいいところは

- ・色んな話も聞けるし、
- ・テレビも聞けるし、
- ・ふつうに話ができることです。

## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

- ・ カルタでFMの絵札を見せて、D児が本日からつけるFM補聴器について、D児に見せてもらって説明する
- ・ D児が前に出て発表(家で書いてきた作文を読む)

「僕は4才のときに、おたふく風という病気で、左耳が聞こえなくなり、右耳も大きな声でないと聞こえなくなりました。でも、ほちょうきをつけるようになって、ふつうに聞こえるようになりました。

ほちょうきのいいところは

- ・色んな話も聞けるし、
- ・テレビも聞けるし、
- ・ふつうに話ができることです。

## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

やだなと思うことは

「え？なんで言ったの？」と言ったら、「やっぱ、いいや」と言う人です。

苦手な音は

近くで「キヤー」とか、耳もとで大きい声を出すことと、こしょこしょ話をされることとか、遠い所から声をかける人と、ちっちゃな声でしゃべる人です。

気をつけてほしいことは

耳もとで話すときは、ふつうの声で話してください。

## ②H25.6月 D児(小5)の通級指導(理解授業)

すわったままで発表すると、だれかわからないので立って発表してください。じゅぎょう中は静かにしてください。

人の話とさわいでいる声がかさなって聞こえなくなるからです。

「聞こえにくい」「なんて言ったの？」と聞いたら、めんどうくさがらずにもう一度ゆっくり言ってください。

色々ふじゆうすることもあるので、助けて下さい。そしておしえてください。これでおわります。」

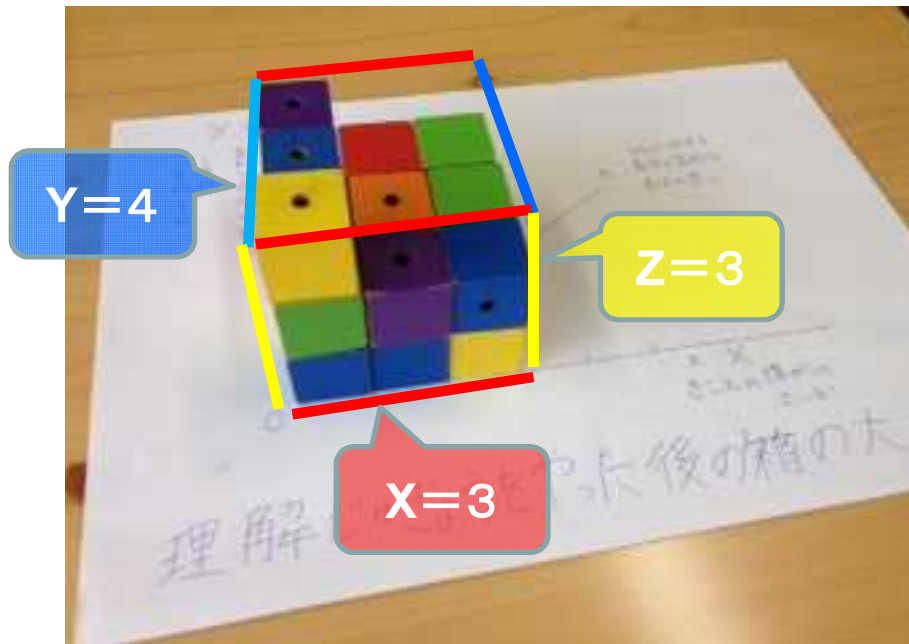
授業後「はじめは声がふるえた」と感想。堂々の発表！

## ②H25.7月 D児(小5)の通級指導(8回目)

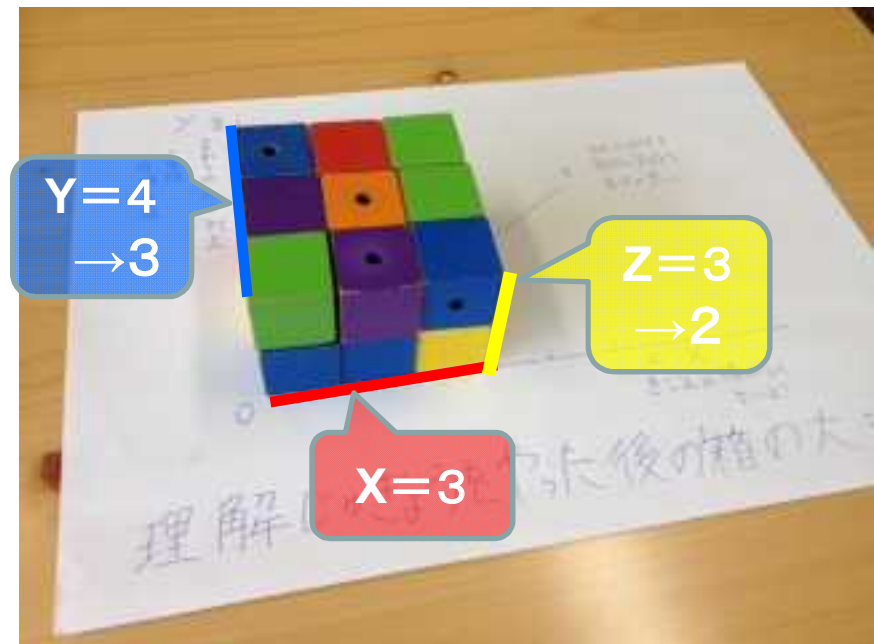
- 理解授業の感想を書く
- 『前に出る前に、ぼくはずっときんちょうしました。出るときになりました。出たときは、ぼくは声ふるえて、ちょっと練習したときとちがいました。終わったら「ふ～」とためいきをつきました。終わったら、最後に先生から「ようがんばったねえ」とほめてくれたので、うれしかったです』
- 「障がいの大きさの箱」の説明をして、積木で箱を作らせてみる

\* 参考「吃音ワークブック」伊藤伸二(解放出版社)

## ②H25.7月 D児(小5)の通級指導(8回目)



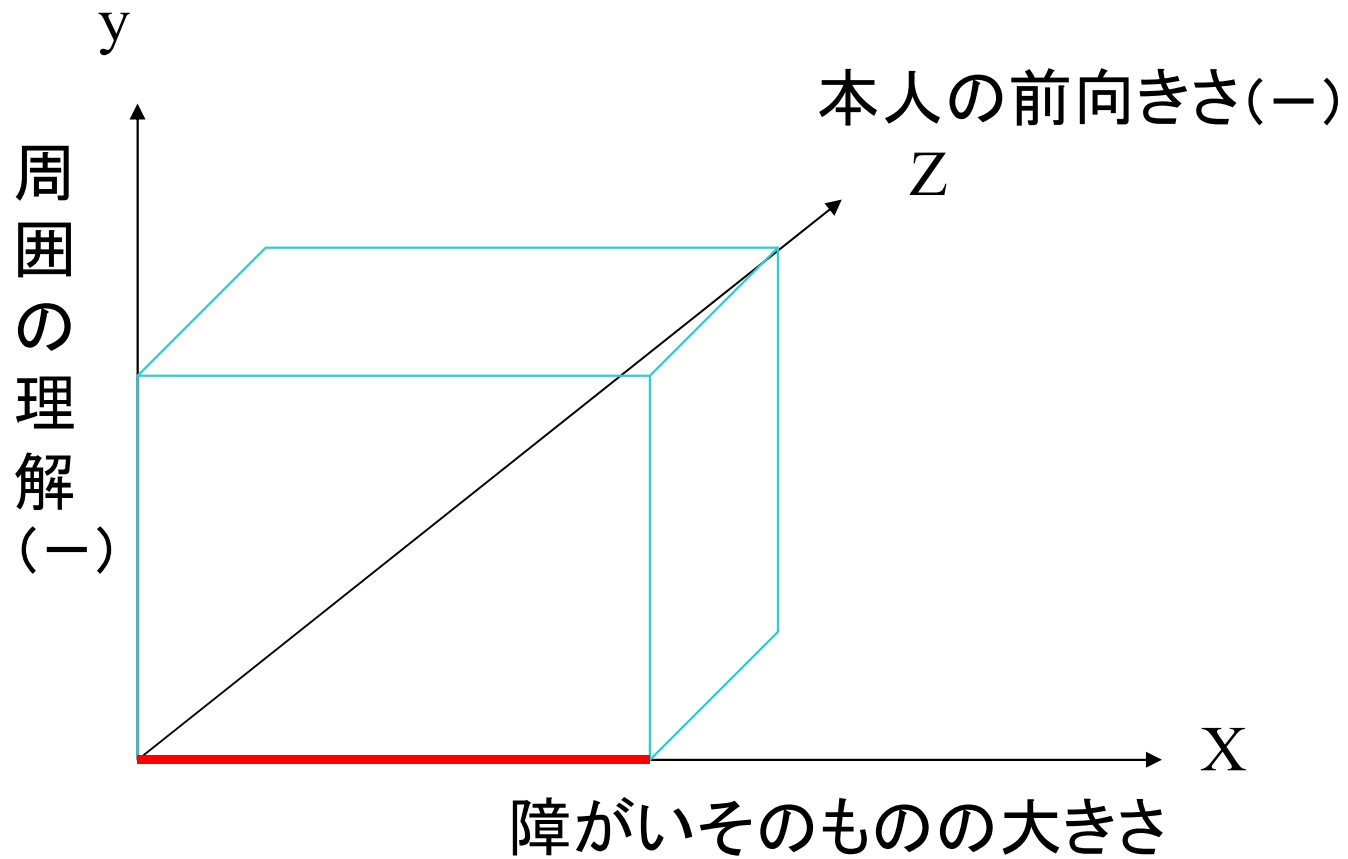
Before



After

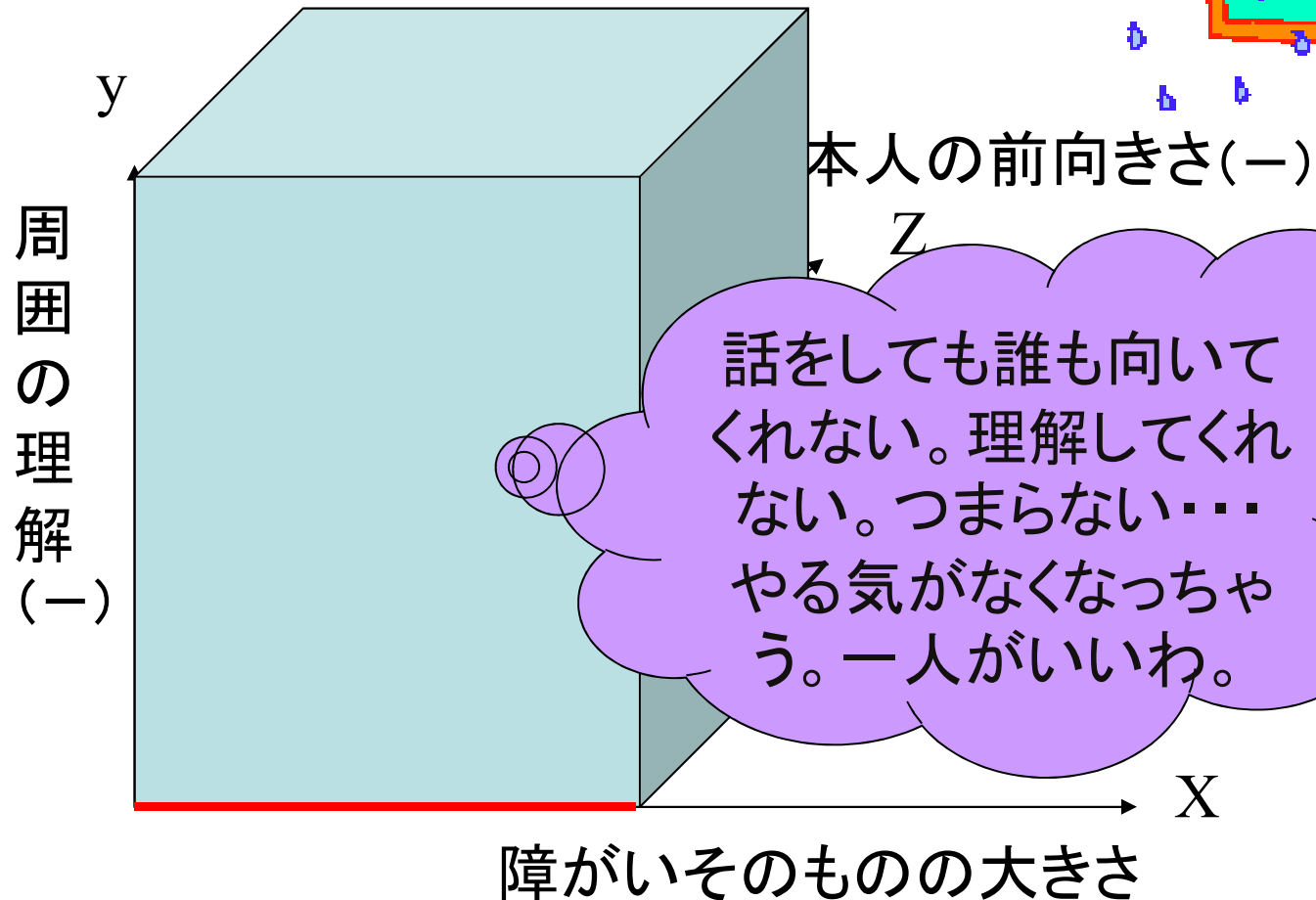
- 「どうしたら箱はもっと小さくなるかな？」
- 「周りの人の対応と自分の気持ちを目標にする」
- 「Xは変わるかな。きこえるようになりたい？」
- 「なりたい」

# <障がいの大きさを表す箱>





# ＜障がいの大きさを表す箱＞



X軸のきこえの障がいの大きさは同じでも...

# <障がいの大きさを表す箱>



y  
周囲の理解  
(一)

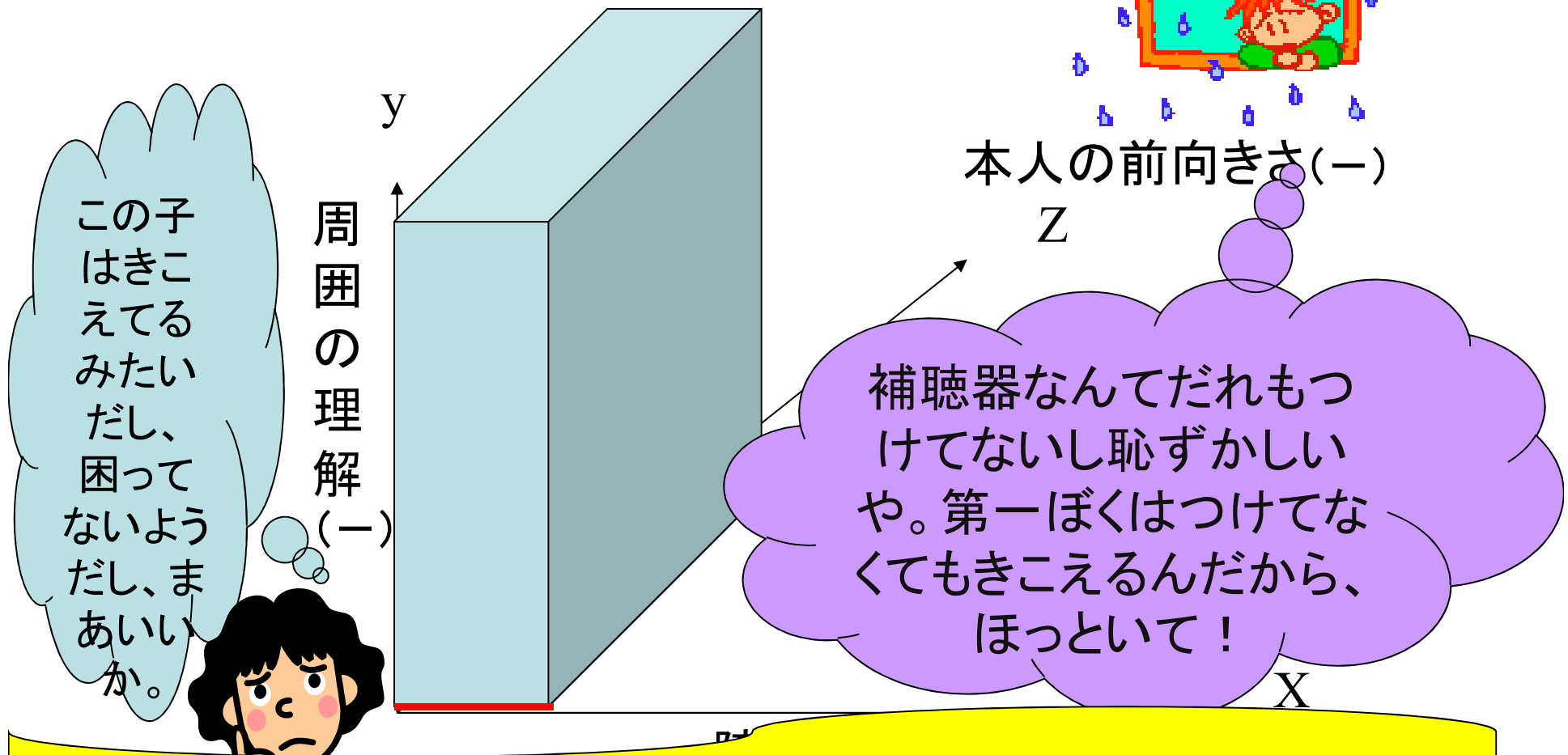


本人の前向きさ(一)

みんなぼくのことを  
わかってもらったり、手  
話を勉強してもらって  
くれるから嬉しいな！  
コミュニケーションが  
楽しいな。それにぼ  
くは障害のある自分

関係次第で、本人次第で、障がいの大きさは  
ずいぶんと変わってくる

# <障害の大きさを表す>



軽中等度難聴の場合 X軸は短いが  
関係次第で、本人次第で箱は大きくなることも

# <障がいの大きさを表す箱から>

- 社会に出るまでは…

周囲の豊かで充実したコミュニケーションのある関係をもとに、本人の前向きさがともに育てられていくことが大事

- 社会に出てからは…

本人の前向きさがあれば絶対に大丈夫！

Y軸：家族や周囲の障がいの理解・受容

Z軸：本人の自己肯定感・障がい認識

# 在籍園での取組

## ③紙芝居「ほちょうき」

- テーマ「補聴器はワタシにとって大事なもの」  
「みんなちがってみんないい」
- 年中・年長児クラスで行う(心の理論)
- 事前に本人に紙芝居を見せて説明する
- 保護者にも必ず一緒に観てもらおう  
必要に応じて本人にフォローできるように
- ロールプレイから日常のコミュニケーションに繋げる
- 親子の受けとめの変革 ステップアップ  
保護者:障がい受容の推進  
園長「見せ物にしなきゃ」 保護者会での説明  
子ども:障がい認識のきっかけ  
ワタシの大事なもの、ワタシらしく見(魅)せられるように
- きょうだい(兄姉)の理解の推進



### ③紙芝居を通じた本人たちの学び

- 補聴器を大切にする気持ち
- 補聴器の説明の仕方(友達に)
- きこえない、わからないときの説明の仕方
- 補聴器の扱い方(日常のチェックの意味)

岡山聾学校幼稚部「保護者による手作り紙芝居」

**親**:自分が我が子のことを説明することの  
主体性と意義

**子ども**:親の作る姿、読み聞かせする姿から  
伝わってくるもの

**親子**:家庭でよりオープンにしていけるよさ  
(保育園で体験した子どもの困り感等が出せる場)

# 聴覚障害のバリアをなくすために・・・

本人と周囲の間に築かれる  
豊かで充実したコミュニケーションを

創造する

- 障害補償・・・補聴器や人工内耳
- 情報保障・・・視覚的な手がかかり等
- 家族や周囲のかかわりの中身

量と質

これらの3つを大切に

かかわりたい！  
関係をもちたい！  
伝わり合いたい！

## 福島の障がい認識にかかわるエピソード

- 中学入学のとき、クラスでの自己紹介の場で  
「僕は耳がきこえません。よろしく…」

初めて味わう爽快感 その後のつきあいが楽に  
障がい認識の大きなステップに

- 別の小学校から入学した珍しい友達に補聴器を試聴させる

自分の障がいを他人に説明できること  
自分からサポートを頼めること

- 大学時代に、難聴児をもつ親の会キャンプにボランティアとして  
毎年参加し、親子からいろんな相談を受ける

「きこえない」ことが役に立っている初めての体験  
「こんな自分でも」大きな自己肯定感



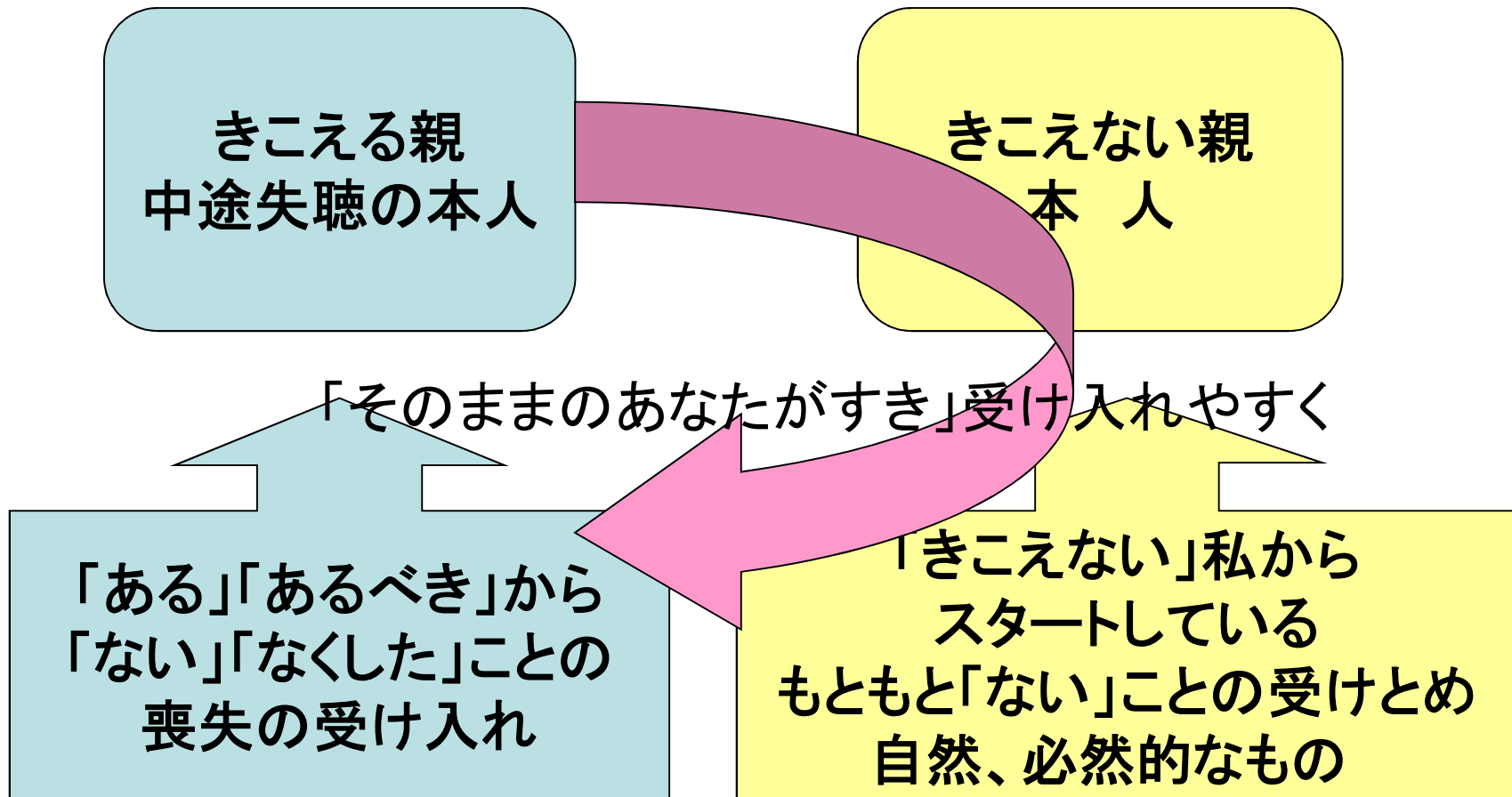
# 「今、自分の障がいをどのように思いますか」 保護者学習会「きこえないあなたがすき」アンケートから

- 障がいというよりも、自分自身として受けとめている。きこえないことが自分にとって普通のこと。
- 障がいという意識はなく、「わたし」という感覚。
- 自然だと思う。きこえなくて当たり前。
- 誇りと思う。ろう者の誇りをもちながら生きていく。
- きこえるようになりたいと思わない。
- 手話のおかげで今の私がある。
- ろうとして生まれてきたのだから、今の自分がある。
- きこえないことは不幸でなく不便なだけ。

# 「障がいの受容」と「障がいの認識」(福島の解釈)

## 障がいの受容

## 障がいの認識





ご清聴ありがとうございました

福島 朗博

[fukushima-akihiro@edu.pref.shimane.jp](mailto:fukushima-akihiro@edu.pref.shimane.jp)